

▼ 芸術工学研究院

ふじ た なお こ
藤田 直子

准教授



Profile

熊本県立済々黉高等学校、千葉大学園芸学部緑地・環境学科卒業。東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻修士課程、同博士課程修了、博士(環境学)学位取得。東京大学大学院農学生命科学研究科リサーチフェロー(ポストク研究員)、(独)国立環境研究所NIESポストクフェロー、(独)森林総合研究所特別研究員を経て現職。

わたしの研究

ランドスケープエコロジー

ランドスケープエコロジー(景観生態学)の視点に基づいて、時空間的に人と地域をとらえ、風土に根差した自然環境と文化・人々との関係の解明に向けた研究を行っています。人が関わって生じた現象の結果を評価することに興味があります。数年前に九大に着任してからは、指導する学生たちの興味が地域おこしやまちづくりに向いていることもあり、自分の専門も新たな方向に広がろうとしています。

これが魅力☆

知らないことを知るよろこび

知らないことを知るよろこび、それが研究の一番の魅力です。一度味わってしまうと、研究って本当に楽しいと思えます。

グンと一気に世界が広がるのが大学生活。思考が開放され、自分の考えを思いっきり肯定できる期間です。

キャリアパス

環境問題から緑地・自然、人との関わりへ

プラスチックは分解できないこと(当時)を科学雑誌で見てショックを受けた小学生のときから、環境問題を学びたいという気持ちは変わらないまま、進学先を探し、選んできました。大学院の決め手は、環境・緑地・自然に「人との関わり」を要素に加えて研究できることでした。学融合(※)を掲げる大学院へ進学し、研究のアプローチは無数にあることを知ります。私の場合は、ひたすら現地を回って、データを取り、地元の人に話を聞くという方法でした。江戸末期から現代までに、東京都心の緑地が、どこに残り、どこで消えたかを調べるために、自転車で訪ねた場所は、3年間で約200ヶ所に上ります。

(※)学融合…文系と理系の壁を取り払い、相異なる学問から新しい学問を創設するという東京大学大学院新領域創成科学研究科の基本理念

わたしの
おとも

コット(キャンプ用寝具)

10年近く研究のおともです。博士課程のときに「(家に帰らなくても)好きなときに好きなだけ研究をして、いつでもどこでも眠れるように」と父親がクリスマスプレゼントに贈ってくれました。こんな風に家族がいつも私のやりたいことを応援してくれているのは、とてもありがたいです。

オン・オフの境目なく研究しています。

好きな国

住んでみたいのはスリランカとミャンマー

これまでに旅をしたのは65ヶ国。一人旅の方が多いです。その中でも住みたいと思ったのは、スリランカとミャンマー。人々が穏やかでホッとします。いつかこれらの国のためになる研究を行うのが目標です。

凹んでもこれで克服

背景を探る

「なんでこんな気持ちになっているんだろう」とじっくり客観視して、背景を探ります。原因が見つかると、どうでもよくなり、前に進めます。

大切なことば
~マジック・ワード~

経験値が増えている

うまくいかないとき、窮地に立たされたときにいつも思うことを言葉にするとこうなります。きつい状況やピンチも、「いつかネタにして話そう」と発想を転換して、マイナスにならないように意識しています。未来は楽しいことばかりと思っています。

尊敬する人

やりたいことを尊重してくれた先生

いつも学生の主体性を尊重して、思いっきり好きな事に没頭できる環境を作ってくれた大学院時代の指導教員です。

本当は研究に専念しなければならない博士課程の時に、1ヶ月以上にわたる南米大陸周遊の旅を決めた時も、『行って来い』と快く送り出して下さいました。結果、その時に得た経験は今の研究人生に大きく反映されています。

私が大学教員になったのは間違いなく恩師の存在あってこそ。人生を決める出会いがあるのも大学の魅力だと思います。